

柏崎刈羽原子力発電所6号及び7号炉 指摘事項に対する回答一覧表
(添付書類5(技術的能力))

No.	審査項目	会合実施日	指摘事項	回答状況	資料No.	頁	回答内容
1	技術的能力	2017/2/14	免震棟については、中越沖地震を踏まえた設計の考え方及びその後の耐震評価の経緯、内容について整理し説明すること。また、緊急時対策所の機能、地盤の支持性能など、条文の趣旨を踏まえ整理し説明すること。	本日回答	資料1-3	P1～4,9,10,12	資料1-3「免震重要棟及び防潮堤の審査対応の問題とその原因と対策」にて、当初設計の考え方及びその後の経緯についてご説明します。 免震重要棟については、2/21第444回審査会合にて、重大事故等対処設備としての緊急時対策所とはしないことを説明しております。 なお、K5TSCの機能については、12/15,27,1/26,2/9,21の審査会合、地盤の支持性能については、12/13,20,26の審査会合で説明済みです。
2	技術的能力	2017/2/14	免震重要棟は、中越沖地震クラスの地震について耐えられるように評価しているのか。設計時、試験を行った時点(2014年)及び現在のそれぞれについて説明すること。	本日回答	資料1-3	P1～4,9,10,12	資料1-3「免震重要棟及び防潮堤の審査対応の問題とその原因と対策」にて、これまでの時系列を整理し、それぞれの時点における評価についてご説明します。
3	技術的能力	2017/2/14	東京電力における部門間の連携を高めるように努めること。	本日回答	資料1-3	P17～19	資料1-3「免震重要棟耐震設計に関する報告書」にて、部門間の連携を高める方針についてご説明します。
4	技術的能力	2017/2/14	審査における部門間の情報共有や先行審査の状況把握について、これまでに改善した事項について具体的に説明すること。また、改善を図ったにもかかわらず同様な事例が起きたことについて、今後どのように改善していくのか説明すること。	本日回答	資料1-3	P17～19	資料1-3「免震重要棟耐震設計に関する報告書」にて、これまでの改善事項及び再発防止策についてご説明します。
5	技術的能力	2017/2/14	液状化や免震重要棟の議論における問題について、時系列で整理した上で、原因と対策について説明すること。	本日回答	資料1-3	P1～7,P13～15	資料1-3「免震重要棟耐震設計に関する報告書」にて、これまでの時系列を整理し、原因及び再発防止策についてご説明します。
6	技術的能力	2017/2/14	先行審査(他電力会社)の状況を自社の審査へ反映する体制について説明すること。	本日回答	資料1-3	P18	資料1-3「免震重要棟耐震設計に関する報告書」にて、他社事例の反映方針についてご説明します。
7	技術的能力	2017/2/14	審査資料について全体をレビューするプロセス(原子炉主任技術者等の関与を含む。)に関する体制について説明すること。	本日回答	資料1-3	P17	資料1-3「免震重要棟耐震設計に関する報告書」にて、審査資料の全体レビュープロセス体制の方針についてご説明します。
8	技術的能力	2017/2/14	技術的能力については、既に具備しているべきものであり、改善事項があれば早急に改善した上で技術的能力について説明すること。	本日回答	資料1-3	P17～19	資料1-3「免震重要棟耐震設計に関する報告書」にて、改善事項についてご説明します。
9	技術的能力	2017/2/14	部門それぞれの技術的能力について説明した上で、組織全体の管理能力について説明すること。	本日回答	資料1-3	P17～19	資料1-3「免震重要棟耐震設計に関する報告書」にて、原子力設備管理部長のもとで、本社と発電所の各技術分野を統括する技術統括者が連携を強化することで、組織全体の管理能力を高めている。
10	技術的能力	2017/2/14	経営層の意識や安全への投資に関する環境は、福島第一原子力発電所事故を受けてどのように変わったのか説明すること。	本日回答	資料1-5	P7～23	資料1-5「原子力事業者の技術的能力に関する審査指針への適合性について(指摘事項への回答)」にて、安全意識の向上には、まず経営層自身の安全意識を高め、安全文化を組織全体へ確実に定着させる必要があり、経営層自身と組織の安全意識の向上に取り組んでいる事例(原子力リーダーからの発信メッセージ等)を説明します。また、安全への投資に関する変化の事例についてご説明します。
11	技術的能力	2017/2/14	自社の他サイト(福島第二、柏崎刈羽)で勤務している職員が、福島第一の設備やハザードについて問題提起をしていたのか調査している場合は説明すること。	本日回答	資料1-2	P93,178～180	体系だった調査を実施した記録はありませんが、福島第一の海水系のポンプが屋外に設置されており、劣化防止処置が必要ではないかとの懸念が表明されていたことは、把握しております。 現在は、「安全向上提案力強化コンペ」において、「具体的な改善策は分からないが、改善した方が原子力安全の向上に繋がると考える事項(現場の危惧)」についても表明できる仕組み等があり、問題提起が容易になっています。